

NEWSLETTER

編集・発行 日本催眠医学心理学会

No.66 2016.6.30

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル9階

（株）毎日学術フォーラム内 TEL.03-6267-4550

日本催眠医学心理学会第 62 回大会を主催するにあたって

第 62 回大会長 阿部真里子（阿部真里子臨床心理オフィス）

この度、第 62 回大会をお引き受けし、現在、準備を進めております。これから大会まで常任理事、理事の先生方やその他の先生方のお力添えを頂きながら、より良い大会にすべく、スタッフの総力を結集し臨みたいと考えております。宜しくご協力のほど、お願い申し上げます。

今回の大会会場は春日部西口に 3 年前に完成したばかりの「ふれあいキューブ」(東部地域振興ふれあい拠点施設)で埼玉県と春日部市の共同出資のコンベンションホールです。会員の皆様に快適に学会の技法研修会及び大会に参加して頂けるものと思います。この大会の開催に合わせたかのように、今春から春日部一大宮間を結ぶアーバンパークライン(旧 東武野田線)に急行ができ、大宮から 15 分で春日部に到着するようになりました。北千住から東武スカイツリーライン特急や快速で約 20 分と、春日部は東京からも、かなりアクセスの良い距離にある都市です。先頃話題になりました日本最大級の高級家具センター大塚家具の発祥の地で、新たに「匠大塚」というインテリアのテーマパークが春日部東口の旧春日部西武跡に 6 月末にオープンすることが決まり、何かと話題が尽きません。住民同士も SNS の「春日部情報掲示板」などを通じ情報交換を行い、温かい雰囲気のある街です。

本大会では大会テーマを『催眠と臨床現場』として様々な臨床現場で催眠を活用されている先生方より具体的にお話し頂き、会員の皆様のご自身の臨床場面で催眠を使うヒントが得られるように、様々な企画を準備しております。特別講演として、『壺イマジ療法』を提唱される田嶋誠一先生(九州大学名誉教授)をお招きし、同療法が臨床場面でどのように活用されているか、ご講演頂きます。シンポジウムでは八巻秀先生(やまき心理臨床オフィス)を座長にお迎えし、各現場でご活躍されている先生方、川嶋新二先生(大学通り武蔵野催眠クリニック)、黒岩貴先生(麻布メンタルクリニック)から、臨床現場での催眠の利用について、豊富な経験に基づいたお話を頂きます。また、日本の私設心理臨床の草分けであり、当学会にも幾多の貢献を頂いております、河野良和先生(河野心理教育研究所)の語る『臨床催眠のイッセイ』について、同氏に長年師事している大会長(阿部真里子)を中心として斯波涼介(阿部真里子臨床心理オフィス)の司会で服部哲久先生(服部カウンセリングルーム)と共に、同氏から学んだ心理臨床のコツを語らいあうシンポジウムを企画しております。更に、催眠や暗示についての考え方を広く一般の方にも知っていただく機会として、鶴光代先生(日本心理臨床学会理事長、元本学会理事長)に市民に向けて「臨床催眠」についての講座をお願いしています。

今回の大会事務局の阿部真里子臨床心理オフィスは平成 4 年に春日部市内に開設され、今年で 24 年目となりました。最初は阿部真里子 唯一人とある保育園の一室を借り、週 1 日夜間のみ数時間から始めました。クライアントさんやスタッフの数も増え、現在の 4LDK に至るまで少しずつ広い場所に 3 回移転しました。現在、多くの EAP との提携もあり、様々な職業の方が来談されています。また、「現実性獲得訓練」(河野良和先生)を目的とした「自然体験活動」(利用者とかみせー共に参加できる宿泊研修会)もこれまで 15 回開催し、各種の研究会、講演会も開いております。そして、河野良和先生から学んだ河野式の自律訓練法や臨床催眠法を使いセラピーの効果あげています。成瀬悟策先生(九州大学名誉教授)、河野良和先生が代々木のオリンピックで 1997 年から 4 年間に渡り、5 月連休中に 2 拍 3 日で主催された「催眠スクール」にはオフィスのスタッフも全員で参

加し、運営や事務のお手伝いもさせて頂いたことも貴重な体験で、今では良い思い出となりました。

大会長の阿部真里子は小学6年生の時に大病を患い九死に一生を得ましたが、「催眠」と出会い救われたとの思いを抱えています。約20年の闘病生活の中で回復がはかばかしく進まず苦しい時期もありましたが、「自己暗示」や「催眠」を学ぶうちに徐々に健康を回復しました。今では仕事はもちろん、趣味の「乗馬」も楽しみながら生き生きと生活し、「奇跡」のように感じています。問題を抱え相談に訪れるクライアントさんのために、この「催眠」の大いなる力（自然治癒力）を活用し普及していくことが私の天命と思います。そのためにも、この大会に多くの会員の皆様にご参加頂き、催眠がカウンセリングに活用される機会が増えていくよう願ってやみません。皆さま、是非、春日部の地に足を運んでくださいますよう、お願い申し上げます。

日本催眠医学心理学会第62回大会 準備委員として

第62回大会準備委員 斯波涼介
(阿部真里子臨床心理士)

私が初めて「催眠療法」と銘打った心理療法を体験したのは、今回の大会を開催致します埼玉県春日部市に在する「阿部真里子臨床心理士」でした。そして、それから十余年の歳月を経て、その同じ地で「日本催眠医学心理学会第62回大会」に、準備委員として携わらせて頂くことになりました。開催当日まで、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、大会概要や春日部についての説明は大会長が仔細に述べておりますので、私の方は私自身が催眠療法というものをどのように知ってきたか、というお話をさせて頂きたいと思っております。催眠を初めて体験したのは阿部真里子臨床心理士であったということは既に述べました。そこで、所長である阿部真里子先生から催眠療法を体験させて頂きました。学生時代に学んだカウンセリング・心理療法にはない独自性のあるアプローチ（共通点もちろんありますが）に非常に衝撃を受け、それ以来同先生のスタッフとして勤務するとともに、催眠療法の勉強、また実践を続けております。

このファースト・インプレッションの後にも、阿部先生のご紹介で、当時毎週火曜日に開催していた「火曜研究会」に参加し、そこで河野心理教育研究所所長 河野良和先生と知り合いました。研究会の中では非常に様々な形で「臨床のインスピレーション」とでも表現できるような内容のお話を聞くことができ、考えさせられました。

また、本会すなわち日本催眠医学心理学会主催の研修会に初めて参加したのも同時期でした。松木繁先生がファシリテーターを務めておられ、私はデモンストレーター（被験者）として松木先生から直接、催眠療法の体験をさせて頂きました。この体験もまた鮮烈だった為、強く記憶に残っています。

私が催眠療法というものを知ってからしばらくの間は、こういった貴重な出会いと衝撃の連続でし

た。それは今でも続いているかも知れません。紙面の都合上勿論全てを記す訳にはいかないのですが、本会の大会・研修会でも非常に沢山の刺激を頂いて参りました。上述した河野良和先生や松木繁先生の考え方やお話を伺えるプログラムを、今大会でも企画中です。

大学院の同期と会う機会などに、私が「催眠療法を勉強している」と言うと、ほとんど例外なくの知人は驚き、また「えっ、眠くな～れ、とか言うの？」などと尋ねられます。私はそのたび苦笑いしながら「そういうのじゃないんだよ」と言います。しかし正直なところ「そういうのじゃない」とは言っても「じゃあ、どういうのなの？」と尋ねられると、恥ずかしながら私は未だ自分の言葉で分かりやすくそれを説明することができません。「催眠って何なの？」「現場でどう使うの？」そのような素朴でありながら、答えるのは容易でない問いが、今大会のテーマです。真に答えと呼べるものは、各人が自ら見つけるものなのかも知れませんが、それを考えるヒトを数多く得られるような場として、今大会を作ってゆければと思っております。正直に言って、準備委員である私自身も、今大会の中で先生方から伺える内容、また研究発表を非常に楽しみにしております。

何分不慣れな者たちが手探りで準備をしておりますため、色々ご迷惑をおかけしてしまうところもあるのですが、参加者の皆様に対し有意義な体験を提供できるよう、準備委員一同奮闘しているところです。今後ともご協力をお願いするとともに、当日はどうぞ皆様、奮ってご参加頂けます様、お願い申し上げます。

委員会報告

資格認定委員会から

松原 慎
(福岡病院)

本学会は過渡期を迎えています。近年実働して頂いている指導催眠士の先生に限られてきており、新たな指導催眠士および認定催眠士の育成が急務となっています。研修委員会とも緊密に連携して参りたいところです。

資格認定委員会のメンバーは、前委員長であった井上忠典理事長、前資格認定委員会事務局担当だった田村英恵事務局長、久保千春先生(九州大学総長)に加え、石井広志先生(石井歯科医院)、吉村隆之先生(有吉祐睡眠クリニック)にお願いしています。地理的に連携が取りやすいことから吉村先生には当委員会の事務局長をお願いしています。

過去2年間の間には、残念ながら申請がありませんでした。その反省を踏まえ、従来より指導催眠士の申請は随時となっていたところ、認定催眠士に関しましても1月の理事会で随時申請とする申し合

わせがされました。

しかし、本来資格認定委員会は可能な限り認定催眠士以上の有資格者で構成することが望ましいこともあり、範を示す意味からも、資格認定委員会に属する中で申請可能な先生方には申請して頂くようお願いします。

その結果、4月10日には指導催眠士1名、認定催眠士4名の試験を行うことが出来ました。試験委員として、鶴光代先生、西田紘一先生、松木繁先生、吉川吉美先生ら4名の指導催眠士の先生方にご協力を頂きました。極めて厳正に審査して頂いたことをご報告させていただきます。結果については7月の常任理事会に報告されます。西田先生、吉川先生ら、しばらく学会活動でお目に掛かりにくかった先生方にも再度本学会を気に掛けて頂くきっかけとなり、その意味でも有意義でした。

元資格認定委員長でもある鶴先生などが今回採点基準などを統一して行くべく助言を下さっていますので、その記録を資格認定委員会でまとめて申し送っていけるかと思えます。どうぞ今後とも研修単位取得及び申請の方も宜しくお願い申し上げます。

編集後期

第62回日本催眠医学心理学会学術大会が、平成28年10月14日(金)から16日(日)まで、埼玉県春日部市で開催されます。阿部真里子臨床心理士の阿部真里子先生の本大会にかける意気込みがひしひしと伝わるご案内でした。更に同士の斯波涼介先生の催眠との出会いと日頃から考えている催眠への思いについて書いて頂きました。資格認定委員会からは資格認定の試験が実施されたとの報告がなされました。しかしながら、本試験は申請の受付期間が9月10日-12月10日と決まっていたにもかかわらず、1月の常任理事会で突然資格認定委員長から随時行うという提案なされ、この時点では反対意見は出なかったものの、「申請の受付期間が随時になったことを会員に告知する前に試験を実施するのはおかしい」と4月初旬の常任理事会で反対意見が多数出たにもかかわらず、常任理事会後に資格認定委員会のメンバーに対して資格試験が強行されました。会員の皆様には、常任理事の一人として、この場を借りてお詫び申し上げます。

(編集：飯森洋史)